

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入)
法人名	社会福祉法人萌生会
事業所名	グループホーム なごみ
所在地 (電話番号)	鳥取県西伯郡伯耆町長山171 (電話)0859-62-0100
評価機関名	有限会社 保健情報サービス
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1 YNT第10ビル
訪問調査日	平成20年8月26日

【情報提供票より】(20年 8月 26日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 9 月 30 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	12 人
利用定員数計	18 人
常勤	12 人
非常勤	人
常勤換算	12

(2)建物概要

建物形態	併設/単独	新築/改築
建物構造	木造平屋	造り
	1階建て	1階 ~ 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	380 円	昼食 450 円
	夕食	500 円	おやつ 50 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	0 名	要介護2	7 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.4 歳	最低	69 歳	最高	96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人萌生会 伯耆中央病院、篠原歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームなごみは町はずれの小高い自然豊かな場所に立てられている。敷地内の庭にはベンチが置かれ、池や蔵があって安らぎの場となっている。庭の一角にある畑は利用者に作る喜び、収穫の喜び、食べる喜びをもたらしている。
この1年間に利用者の変動はあったが変わらず介護度の高い利用者が多く入所されており、介護度の低い人と比べ意思の表示や疎通等、ケアのバランスが難しく、日々試行錯誤をくり返しなが、よりよいケアを目指して日夜努力を惜しまない。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で改善項目として挙げられていた、「地域密着型サービスとしての理念」の作成について職員全員で検討し、今までの理念はそのまま継続し、ホーム独自の指針を定め、文章化している。また、介護計画の見直しについても、実行・改善されていた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員ミーティングで評価の意義を確認し、全員で評価票に書き込みながら検討する方法で評価を行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されており、利用者の状況報告と活動報告を行ない、委員から意見や情報の提供があり、それらを取り入れた活動が行われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会や親睦会の開催時、介護計画作成時や面会の時に家族の意見や苦情、悩みを聞き、運営に反映させている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事(彼岸市、作品展等)に参加したり、保育所との交流、ボランティアの受け入れ、近隣住民への広報誌の配布、「障がい老人をささえる家族の会」に出席することなどを通じて地域との交流をすすめている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回の評価で期待した地域密着の観点にたった理念の作成について、全員で検討した結果、理念は従来通りで指針を定めて文章化し、玄関に貼り出している。	<input type="radio"/>	「利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けること」を支えていくサービスとして、利用者、家族、地域の人々も具体的なイメージが持てるような理念が望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日常的にミーティングや勉強会で理念を基に話し合い、実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事への参加、保育所との交流、ボランティアによる工作の指導、近隣住民へ広報誌の配布、ちまき配り、町の「障がい老人をささえる家族の会」に出席するなど、地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員ミーティングで評価の意義を確認し、全員で自己評価に取り組み、一部にまとめられた。外部評価の結果についても、全員で話し合いを重ねて改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回開かれており、利用者の状況や活動報告を行ない、それに対して委員から意見や情報提供があり、改善に向けた具体的な取り組みにつなげている。		地元の人とのつながりを強めるため、地域の自治会、老人会の人にメンバーになって頂き、地域住民を巻き込んだ取り組みをされるとよいでしょう。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の共催である「障がい老人をささえる家族の会」にも参加し、ホームのサービスの質の向上に役立てられるように取り組んでいる。		日頃の介護の中で家族が困っている事などの相談に、介護のプロとして、アドバイス等してあげられたら良いと思う。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月担当者が利用者の暮らしぶりや健康状態等近況の報告を利用明細書と一緒に送付している。定期的な「なごみ便り」も発行して送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が参加する親睦会やサービス担当者会議等の時に、意見や希望、不満・苦情を聞き、運営に反映できるように努力されている。また、面会に来られた時に気軽に言っただけの様に努めていることが伺えた。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所当時から職員の異動が複数おられ、比較的異動は少ない。異動等がある場合には、利用者や家族には近況報告書に書き添えて紹介を行い、理解していただける様に努めている。系列の老人施設との相互研修を行い、異動が必要となった時に備え、利用者・家族へのダメージを最小限に防ぐように配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で行われる定期的な研修の他に、ホームでの年間研修計画を立て職員が全員外部研修に参加出来る様に取り組まれている。研修後は報告会を行い、伝達講習されている事も確認出来た。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会が行う相互研修にも参加し、交流を通じて質の向上に取り組んでいる。また、外部研修で知り合った同業者と情報交換も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に職員が事前訪問し、情報の収集を行いながら関係を深め、本人や家族に対し、利用前のホーム見学を勧め、職員と顔なじみの関係を作るようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者にサービスを提供させていただいていると言う気持ちを忘れず、利用者と共に過ごし、学び支えあう姿勢を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望、意向を把握することを大切に、日々のケアに努めている。意思表示困難な利用者に対しても把握しようと努力し、意向や希望の把握が本人本位になるよう検討されている事が伺えた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時、サービス担当者会議を開き、本人、家族にも出席して頂き、希望を抽出して計画を作成している。会議に出席できない家族には事前に希望や意見を聞くように努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	前回の改善項目でもあるプランの見直しについては、利用者の変化に伴って見直しを行ったプランが確認できた。毎月モニタリングを行い、新たな変化に伴う計画の変更後のプランも確認できた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診や利用者の希望に沿った外出(買い物、墓参りなど)の支援が柔軟に行われている。法人の関連施設のバスを利用したレクリエーションなども行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の多くは関連法人の病院がかかりつけ医で、受診、往診の支援が行われているが、病気によっては他の医療機関を受診することもあり、適切な医療を受けられる様に受診支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現段階では、グループホーム内でのターミナルケアを行う準備はなされていない。本人や家族との話し合いを基に主治医や関係者と連携を取り、職員間でも方針を共有して取り組んでいるが、隣接の病院に入院することが多い。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人策定の個人情報マニュアルに沿って記録等の取り扱いに注意を払っている。プライバシーに関しては利用者の自尊心を傷つけないような声掛けや対応を心掛けている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の予定を話題にして都合や希望を聞いて希望に沿えるよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は3食共法人の老人施設で作られているが、月1回の食事レクリエーションや、おやつ作りの日を設けて、食事を楽しんでいる。畑の野菜を用いた調理も随時行い、食事の1品に加えられている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の入浴スケジュールは定めてあるが、希望も受け入れており、職員の勤務体制の変更に取り組んだ結果、夕食後の入浴も支援が可能になった。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は洗濯炊事、食事の片付けなど、経験や希望に沿った役割を持ち、また、畑仕事や、散歩、囲碁、手芸等、楽しみと気晴らしの支援が行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望を聞いて、買い物、散歩、ドライブ等、その都度対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は安全の為に施錠しているが、日中は玄関、正門共に開放している。居室の施錠は行われていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練(1回は夜間想定)を行っている。また、今年度より洪水予報、土砂災害警戒情報発令時の対応訓練も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、栄養バランスとも系列法人の管理栄養士が指導している。食事は利用者の嚥下や咀嚼力の状態に応じて献立を変えたり、ミキサー食にしたりして栄養が確保されるように支援されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は掃除が行き届き、季節の花が飾られて居心地良い空間となっている。また、ユニットにある中庭は和風の落ち着いた雰囲気の中で安らぎが感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者の使い慣れた物や、思い出の品物などが持ち込まれており、居心地よく過ごせる様工夫がなされ、部屋に馴染んでいる。		